

第2章 高岡市の文化財保護のあゆみ

(1) 第二次世界大戦前までの文化財保護

国のうごき	明治 4 年 (1871)	太政官布告 古器旧物保存方
	明治 30 年 (1897)	古社寺保存法制定
	大正 8 年 (1919)	史蹟名勝天然紀念物保存法制定
	昭和 4 年 (1929)	国宝保存法制定
	昭和 8 年 (1933)	重要美術品等ノ保存ニ関スル法律制定
県のうごき	昭和 11 年 (1936)	富山県史蹟名勝天然紀念物保存顕彰規程制定

高岡における文化財保護の取り組みの端緒は高岡城跡の保存が挙げられる。高岡城は元和元年（1615）の一国一城令によって廃城となったのちも堀と土塁など城の基部はそのまま残され、江戸時代を通して加賀藩の倉庫が幾棟か建っていただけであったが、町民は「古御城」と称して町の誇りとしていた。明治維新後、金沢藩によって払い下げが決定し、明治5年（1872）に入札が行われた。古御城は町民をはじめ近郊の住人からも貴賤を問わず名所として親しまれており、失われることが懸念された。おりしも明治6年（1873）にわが国最初の公園制度である太政官布告第16号が出されたことを受け、翌年、大区長（現在の市長に相当）であった服部嘉十郎らによって当時の新川県令に公園指定の請願書が提出され、同8年（1875）7月4日に「高岡公園」として指定された。この結果、高岡城は、高岡古城公園・高岡城跡として築城当時の縄張りをほぼそのまま現在に残すことができた。ナショナルトラスト運動の先駆と捉えることができる。

明治30年（1897）の古社寺保存法を受け、明治38年（1907）に瑞龍寺の宝物である紙本墨書後陽成天皇宸翰御消息、明治42年（1909）に仏殿が旧国宝に指定された。明治22年（1889）4月に市制施行した本市における最初の文化財指定であった。

大正10年（1921）から行われた富山県史蹟名勝天然紀念物調査会による調査成果もあり、昭和3年（1928）に瑞龍寺総門・法堂、昭和6年（1931）に氣多神社本殿、昭和12年（1937）に総持寺木造千手観音坐像が旧国宝に、昭和9年（1934）に桜谷古墳が史跡に指定され、昭和10年（1935）から昭和13年（1938）まで、瑞龍寺の総門・仏殿・法堂の修理事業が実施された。

旧高岡市内の文化財は幸い戦災、人災、天災を免れ、戦後の占領期間も保存された。旧高岡市に文化財保護に関する規定などはなかったが、高岡御車山などの分散疎開や、高岡大仏や寺院の古い梵鐘や仏具などの金属供出を阻止する運動を行うなど高岡市民の手によって保存が図られた。

この時期に指定された主な文化財

- 【国指定】紙本墨書後陽成天皇宸翰御消息（文書）瑞龍寺仏殿、法堂及び総門、氣多神社本殿（建造物）、木造千手観音坐像（彫刻）、桜谷古墳（史跡）
- 【県指定】越中国分寺跡、木舟城跡、高岡城跡、城ヶ平横穴、葦附のりほか5件

(2) 高岡市美術館の創設と文化財保護に関する条例の制定（昭和25年（1950）から38年（1963）まで）

国のうごき	昭和 25 年 (1950)	文化財保護法制定
	昭和 29 年 (1954)	文化財保護法改正（民俗資料が有形文化財から独立、地方指定制度等の創設）
県のうごき	昭和 28 年 (1953)	史蹟名勝天然紀念保存顕彰規程廃止、富山県文化財保護規則制定

旧高岡市のうごき

昭和25年（1950）に教育委員会の社会課に文化財担当者を置き、翌26年（1951）に高岡市美術館を創設すると、市内の社寺や旧家などが所蔵する美術工芸品の調査を開始し、昭和28年（1953）に第1回高岡文化財資料展を開催し、以後毎年調査と展示を行った。

昭和 27 年（1952）に社会課内に高岡市文化財保存会を設置し、高岡御車山の調査と研究を開始した。この結果、翌 28 年（1953）に**高岡御車山**が美術工芸品として富山県文化財に指定されている。翌 29 年（1954）には高岡御車山祭を行う山町十ヶ町が連合して高岡御車山保存会を結成し『**高岡御車山資料**』を作成した。市も昭和 32 年（1957）に『**高岡御車山と日本の曳山**』を出版するなど、官民一致した努力により、昭和 35 年（1960）、**高岡御車山**は国の重要民俗資料に指定された。高岡御車山は昭和 38 年（1963）から翌 39 年（1964）にかけて第一次修理事業を行っている。

昭和 29 年（1954）に文化財保護法の改正を受け、昭和 34 年（1959）、高岡市文化財保護に関する条例を制定し、高岡市文化財審議会を設置した。戸出町など県内のいくつかの自治体では富山県に倣って規則を制定し、文化財指定を行っていたが、旧高岡市は文化財保護のための補助金制度など、県内で最も早く法改正に対応した独自の条例であった。また、この年に『**高岡市史（上巻）**』を刊行している。『高岡市史』はその後、昭和 44 年（1969）に中巻、昭和 45 年（1970）に下巻が刊行されたが、史料編は作られなかった。

高岡市教育委員会では高岡市美術館による社寺・旧家などが所蔵する文化財調査の成果を基に調査を進め、高岡市文化財審議会に諮り、昭和 38 年（1963）までに**達磨図**など絵画 2 件、**時鐘**など工芸品 4 件を含む計 17 件を高岡市文化財に指定している。

この時期は、官民一体となった取り組みが盛んに行われるとともに、様々な専門家および地元研究者の調査が多く実施された。

この時期に指定された主な文化財

【国指定】高岡御車山（重要民俗資料）ほか 1 件

【県指定】木造十一面観世音菩薩立像（彫刻）、前田利長公墓所（遺跡）ほか 6 件

【市指定】達磨図（絵画）、時鐘（工芸品）、桜谷古墳付近出土品（考古資料）ほか 14 件

(3) 高岡市立博物館の創設（昭和 39 年（1964）から 50 年（1975）まで）

国のうごき 昭和 43 年（1968）文化庁発足、文化財保護審議会設置

県のうごき 昭和 38 年（1963）富山県文化財保護条例制定

昭和 38 年（1963）、富山県は、富山県文化財保護条例を制定し、市内では**高岡城跡**、**城が平横穴古墳**など旧文化財保護規則で指定していたものを中心に県文化財に指定された。また富山県は昭和 39 年（1964）から翌 40 年（1965）に**富山県工芸技術無形文化財保持者**を 4 名認定したが、うち金工 1 名、漆工芸 2 名が高岡市在住であった。

旧高岡市のうごき

昭和 40 年代は、戸出町・中田町の編入に伴う市域の拡大、高度経済成長期による環境の変化に対応して文化財保護に努め、民家などの建造物、仏像彫刻、民俗文化財など市内の文化財について国・県の調査に全面的に協力するとともに旧高岡市独自の調査も行った。戸出町の指定文化財であった戸出御旅屋の門など 3 件を市文化財に指定している。また、耕作や宅地化によって荒廃していた桜谷古墳の公有地化を行い、昭和 40 年（1965）から同 44 年（1969）まで桜谷古墳保存修理事業を行った。高岡御車山についても昭和 44 年（1969）から同 47 年（1972）まで第二次修理事業を行っている。

昭和 45 年（1970）、郷土の歴史、考古、民俗、伝統産業関係資料の調査・研究・収集・展示を目的とする**高岡市立博物館**が開館し、美術工芸関係の文化財調査に協力していた高岡市美術館とともに文化財保護の面で大きな力となった。

旧福岡町のうごき

旧福岡町でも昭和 45 年（1970）に条例を制定し、昭和 50 年（1975）までに**浅井神社の杉並木**など天然

記念物 7 件を含む計 14 件を町文化財に指定している。なお、『戸出町史』や『中田町誌』、『福岡町史』など自治体史はこの時期に発行している。

この時期に指定された主な文化財

【国指定】武田家住宅、佐伯家住宅（建造物）、木造男神坐像（彫刻）

【県指定】瑞龍寺前田家寄進の宝物、勝興寺の宝物（歴史資料）ほか 22 件

【市指定】戸出御旅屋の門（建造物）、木造毘沙門天造（彫刻）、御車山文書（古文書）ほか 13 件

【町指定】杉野家文書（古文書）、浅井神社の杉並木（動物・植物・地質鉱物）ほか 12 件

(4) 万葉のまちづくり（昭和 51 年（1976）から昭和 64 年（1989）まで）

国のうごき 昭和 50 年（1975）文化財保護法改正（民俗文化財指定、伝統的建造物群制度創設）

県のうごき 昭和 50 年（1975）富山県文化財保護審議会設置

旧高岡市のうごき

昭和 51 年（1976）、教育委員会社会教育課に新たに文化係を設置し、それまで庶務係で行っていた文化財関係業務を担わせて組織の充実を図った。埋蔵文化財の専門員は少し遅れて昭和 61 年（1986）に初めて配置され、開発事業に対応している。また、山町筋では、高層マンションの建設が計画されるなど伝統的建造物の保存が大きな問題となり、市は昭和 60 年（1985）に町並み対策調査を実施し、昭和 61 年（1986）に『山町筋伝統的建造物群保存地区調査報告書』を発行している。金屋町では、昭和 54 年（1979）から町並み保存の活動が始まっており、昭和 55 年（1980）には、地元自治会が旧北陸銀行の支店を買収し金屋町公民館と鋳物の資料館を兼ね備えた施設を整備した。昭和 57 年（1982）に住民組織である「金屋町まちづくり推進協議会」が設立された。昭和 62 年（1987）には、「金屋町まちづくり憲章」が議決され、住民主導の町並み保存が進められた。

高岡御車山については、昭和 53 年（1978）から同 57 年（1982）にかけて第 3 次修理事業を、昭和 55 年（1980）から 3 か年に渡って高岡御車山祭地域伝承事業を実施している。また、昭和 58 年（1983）に山鉾研究書『高岡御車山と日本の曳山』を 25 年の時を経て加筆し、再版している。

また、富山県は県内の文化財調査を行っており、昭和 49 年（1974）から行われた富山県内曳山調査の成果は昭和 54 年（1979）、高岡御車山祭の御車山行事の重要無形民俗文化財に、昭和 55 年（1980）に行われた近世社寺建築緊急調査の成果は瑞龍寺の山門や、勝興寺本堂らの重要文化財の指定につながった。この後、瑞龍寺では昭和 60 年（1985）から平成 8 年（1996）にかけての大規模な修理事業が開始した。

一方、昭和 54 年（1979）、国際児童年に合わせ、高岡古城ライオンズクラブと高岡市教育委員会の企画により、「越中万葉かるた」が製作され、翌年に「第 1 回越中万葉かるた大会」が開催されたことをきっかけに、高岡が万葉集ゆかりの地である意識が高まり、市総合計画の将来像に「ゆたかな万葉の詩情と地域に根ざす文化のまち」が掲げられた。開町以来の商工都市として、これまで商工施策を中心としてきた旧高岡市において「文化」を前面に出したことは画期的であった。平成 2 年（1990）には『万葉集』を中心テーマに据えた日本で初めての研究施設として高岡市万葉歴史館を設置するなど、「万葉のふるさとづくり」が市の施策の一つになっている。昭和 61 年（1986）からは、『万葉集』だけでなく考古学的な手法からのアプローチも開始され、5 年間にかけて越中国府関連遺跡の調査を実施した。

旧福岡町のうごき

旧福岡町では、昭和 56 年（1981）から小学校において町の伝統的産業である菅笠づくりの授業が開始した。昭和 63 年（1988）には、大正 13 年（1924）に建てられた旧町役場を移設し、歴史的資料や民俗資料の保存・展示施設として、福岡町歴史民俗資料館が開館している。

この時期に指定された主な文化財

- 【国指定】瑞龍寺山門他5棟、勝興寺本堂・唐門（建造物）、高岡御車山の御車山行事（無形の民俗文化財）
- 【県指定】二上射水神社の築山行事（無形の民俗文化財）他1件
- 【市指定】銅造阿彌陀如来坐像（彫刻）、御旅屋古図（古文書）、伏木神社春季例大祭の祭礼行事（無形の民俗文化財）他10件
- 【町指定】下向田古墳群（遺跡）、浄永寺の大いちょう（動物・植物・地質鉱物）ほか1件

(5) 瑞龍寺の国宝指定と勝興寺の大修理（平成元年（1989）から平成17年（2005）まで）

国のうごき	平成11年（1999）	地方分権一括法（地方自治体への権限移譲）
	平成13年（2001）	文部科学省発足
	平成16年（2004）	文化財保護法改正（文化的景観、用具製作技術の民俗文化財、美術工芸品の登録文化財制度の追加）

旧高岡市のうごき

この間のトピックスは瑞龍寺と勝興寺である。大規模修理が終了した瑞龍寺では、平成9年（1997）、**仏殿、山門、法堂**の3棟が近世建築として初の国宝に指定された。勝興寺では、先の近世社寺建築緊急調査の成果を受けて、昭和63年（1988）から伽藍及び寺内町の調査が進められており、市は平成6年（1994）に調査報告書『**越中勝興寺伽藍**』を発行した。その後、平成7年（1995）に**大広間及び式台ほか9棟**が重要文化財に指定され、平成10年（1998）、勝興寺の平成の大修理事業が始まった。この事業は事業費や修理期間、関連する文化財の数など瑞龍寺の修理を超える大規模なものであったことから、民間有志を主体として重要文化財勝興寺文化財保存会、財団法人勝興寺文化財保存・活用事業団が設立され、国・県・市に協力して事業を進めた。平成16年（2004）、本堂の修理工事が終了し、翌年から大広間及び式台等本坊部分の修理工事が始まった。

高岡御車山については、平成3年（1991）に高岡御車山研究委員会を組織し、御車山を精緻に実測し、併せて構成する工芸品や記録、伝承の調査を行い、平成12年（2000）まで毎年調査報告書を刊行している。

町並み保存の動きとしては、平成4年（1992）、山町筋の住民により「山町筋まちづくり協議会」が結成された。平成10年（1998）、市は文化財を活かして風格ある美しい町を作ることを目的に「高岡市町並み保存・都市景観条例」を制定し、山町筋の土蔵造り建造物群を伝統的建造物群保存地区に指定した。平成12年（2000）、重要伝統的建造物群保存地区に選定された。また、建造物の登録文化財制度創設を受けて、平成13年（2001）までに**高岡商工会議所伏木支所**など23件が登録された。さらに「町並み保存・都市景観条例」に基づき高岡城跡の北にある池の端地区を池の端通り景観形成地区に指定し、景観づくりの基準を設け、景観誘導を行っており、文化財の周辺環境の保全にも取り組み始めた。

伝統技術の継承や人材の育成などを図るため、国の構造改革特別区域計画「高岡市ものづくり・デザイン人材育成特区」の認定を受け、平成18年（2006）から市内の小中学校において伝統的な技法を使った鋳物・漆器作品の製作等を通してものづくりと郷土を学ぶ独自の必修教科（**ものづくり・デザイン科**）を設けた。実技体験や関係施設見学などに学外の工芸技術者などを非常勤講師として招聘している。

文化財保護行政の体制としては、平成2年（1990）、財団法人高岡市民文化振興事業団を設立し、高岡市万葉歴史館、同6年（1994）に高岡市美術館、同8年（1996）に高岡市立博物館の管理を担うこととなった。このことにより、学芸機能と文化財保護行政との距離が置かれることになった。

一方教育委員会では平成7年（1995）、社会教育課から文化財業務を独立させ文化財課を創設した。文化財係と埋蔵文化財係を置き、職員も増員して9名となった。埋蔵文化財の専門職員の増員は、大規模開発への対応によるものである。さらに勝興寺の修理事業や伝統的建造物群などの業務に対応するため、平成10年（1998）以降、建築士を配置している。

さらに市が取得した市指定文化財の旧秋元家住宅、旧室崎家住宅をそれぞれ平成10年（1998）に**高岡市伏木北前船資料館**、平成14年（2002）に**高岡市土蔵造りのまち資料館**として開館している。また国から旧伏木測候所の払い下げを受け、平成17年（2005）に**高岡市伏木気象資料館**を開館している。

旧福岡町のうごき

旧福岡町では、能越自動車道の整備に伴い木舟城の城下町の遺跡が確認されたことから、平成8年（1996）に埋蔵文化財の専門職員を採用し、木舟城跡調査検討委員会を設置して調査を行い、平成14年（2002）に木舟城シンポジウムを実施している。

この時期に指定された主な文化財

- 【国指定】菅野家住宅（建造物）、紙本金地着色洛中洛外図六曲屏風（絵画）他3件
- 【国選定】山町筋（伝統的建造物群）
- 【県指定】筏井家住宅（建造物）、清都家測量器具等関係資料（歴史資料）
- 【市指定】旧秋元家住宅（建造物）、氣多神社のにらみ獅子（無形の民俗文化財）他12件
- 【町指定】絹本著色釈迦十六善神像（絵画）、赤丸城跡、鴨城跡（遺跡）他4件
- 【国登録】清都酒造場主屋、福岡町歴史民俗資料館（福岡町役場）（建造物）他22件

(6) 新高岡市一開町400年、勝興寺の国宝指定ー（平成18年（2006）から令和5年（2023））

国のうごき	平成18年（2006）	世界文化遺産暫定一覧表候補の公募開始
	平成19年（2007）	歴史文化基本構想の策定支援始まる
	平成20年（2008）	歴史まちづくり法（地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律）制定
	平成27年（2015）	日本遺産ストーリー認定制度創設
	平成30年（2018）	文化財保護法改正（文化財保存活用地域計画法定化 等）
	令和2年（2020）	文化観光振興法（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律）制定
	令和3年（2021）	文化財保護法改正（登録文化財制度を民俗文化財、記念物等に拡充）

高岡市のうごき

平成17年（2005）11月1日、旧高岡市と旧福岡町は合併し、新高岡市としてスタートした。平成21年（2009）が高岡開町400年に当たることから、新市の総合計画の将来像の中に「万葉と前田家ゆかりの歴史と文化の詩情に出会える ふれあい交流都市」が掲げられ、開町400年記念事業が行われる中で、高岡城跡をはじめする加賀前田家に関連する文化財が脚光を浴びた。四半世紀以上「万葉のまちづくり」を軸として行ってきた高岡において画期的であった。平成18年（2006）に国が世界遺産暫定一覧表記載資産候補を公募した際には、富山県の勧めにより「近世高岡の文化遺産群」として県と共同提案している。なお、このとき立ち上げられた「世界文化遺産を目指す高岡市民の会」には発足から1年ほどで5千名以上の会員が集まっている。このような中で平成18年（2006）から金沢市と連携して前田利長墓所の調査を行い、続いて平成20年（2008）から高岡城跡の詳細調査、金屋町の伝統的建造物群の調査を開始した。

また、国の動きに対応して平成22年度（2011）に高岡市歴史文化基本構想、高岡市歴史的風致維持向上計画を策定し、歴史文化を活かしたまちづくりを具体化させた。

平成27年（2015）は、3月に北陸新幹線の金沢開業があり、高岡市にとって画期となった。同月に**高岡城跡**が国史跡に指定され、翌4月には「**加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡-人・技・心-**」が**日本遺産**の認定を受け、近世高岡の文化財の注目度がさらに高まった。認定を受けた日本遺産のストーリーは、それまで別々に表現されてきた「近世高岡の文化遺産群」に挙げられた建造物・史跡等と高岡御車山祭、「ものづくりのまち」を結びつけるものであり、高岡の歴史文化の特徴を端的に表現し、市民や県外等にも広く伝えることができるようになった。

平成28年（2016）に**高岡御車山祭の御車山行事を含む「山・鉾・屋台行事」**が**ユネスコ無形文化遺産**

に登録された。この登録を受け、児童生徒が本市の歴史文化に触れ、ふるさとの魅力を実感する機会の充実を図り、郷土を愛する心を育むためとして、平成 29 年（2017）から高岡御車山祭の祭礼日に当たる毎年 5 月 1 日を「高岡の歴史文化に親しむ日」とし、市立小・中・義務教育・特別支援学級を休業日とした。

令和 3 年（2021）に平成 17 年（2005）から続いていた勝興寺本坊の大修理事業が終了し、翌年、**本堂、大広間及び式台**が国宝に指定され、記念事業が行われた。

平成 21 年（2009）に**加賀藩主前田家墓所（前田利長墓所）**が国の史跡に、**越中福岡の菅笠製作技術**が重要無形民俗文化財に指定された後、平成 24 年（2012）に**金屋町の重要伝統的建造物群保存地区**選定、平成 26 年に「**おくのほそ道の風景地一有磯海（女岩）-**」の国指定、平成 27 年（2015）**高岡城跡**の国指定、令和 2 年（2020）に吉久の**重要伝統的建造物群保存地区**選定、平成 30 年（2018）には、**日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間（北前船寄港地・船主集落）」**に追加認定されるなど、令和 4 年（2022）まで毎年のように国の文化財指定等が行われた。

北陸新幹線金沢開業に合わせて寺院や町並みなどの文化財を巡る観光から鋳物体験など体験型の観光商品が造成されるようになった。令和元年（2019）に設立された観光づくり地域法人が設立（令和 3 年（2021）に地域連携 DMO の認定）されるなど文化観光の面においても充実してきている。

文化財保護行政の体制としては、平成 29 年（2017）、組織改編により文化財課が生涯学習・文化財課となるとともに、日本遺産推進事業や博物館等の所管が教育委員会から市長部局に移された。令和 3 年（2021）の組織改編によって文化財保護活用課となり、生涯学習の事業が離れ、文化財保護と日本遺産推進事業を行っている。

職員数については、数度の機構改革においても 10 名前後で推移しているが、専門職員の配置については、合併直後の文化財課は建築士 1 名、埋蔵文化財の専門職員 5 名であったが、平成 29 年（2017）には建築士 1 名、埋蔵文化財の専門職員 2 名となり、吉久地区の選定を受け、令和 3 年（2021）から建築士が 1 名増員されている。

文化財施設では、平成 19 年（2007）に金屋町に**鋳物資料館**を開設し、平成 27 年（2015）、市の観光部局によって山町筋に高岡御車山祭の歴史と文化を紹介する**高岡御車山会館**を開館した。平成 29 年（2017）には、**高岡市埋蔵文化財センター**が開館し、長年の課題であった埋蔵文化財の収蔵・展示に対応できるようになった。福岡町歴史民俗資料館は合併後も開館時間等を変更しながら開館している。

この時期に指定された主な文化財

【国指定】越中福岡の菅笠製作技術（無形の民俗文化財）、加賀藩主前田家墓所（前田利長墓所）、高岡城跡（遺跡）、おくのほそ道の風景地一有磯海（名勝地）

【国選定】金屋町、吉久（伝統的建造物群）

【市指定】武人文大香炉、福寿文勇助塗飾棚（工芸品）、守山城跡（遺跡）他 8 件

【国登録】旧伏木測候所庁舎（建造物）、高岡鋳物の製作用具及び製品（有形の民俗文化財）他 13 件

第3章 高岡市の文化財の概要

1 文化財調査の概要

(1) 既存の文化財の調査

先述のとおりこれまでの文化財の調査は、文化庁、富山県及び高岡市のほか、民間機関・研究会、郷土史家などの個人によって実施されている（資料編「文化財に関する既往の把握調査」参照）。

調査内容を文化財の類型からみると、継続的に調査が行われた美術工芸品（古文書）、埋蔵文化財、伝統的建造物群の数が多い。

建造物は、瑞龍寺や勝興寺など修理工事に伴う詳細な報告書や文化庁の補助を受けて県が実施した調査に加え、歴史文化基本構想作成時に総合的な把握調査を行っている。

美術工芸品は、高岡市立中央図書館が所蔵する「高岡史料」の編纂のために集められた資料を翻刻して年に1ないし2集を発行している「高岡市史料集」が半分を占める。古文書以外では昭和の終わりから平成の初めにかけて行われた石仏調査が多く、絵画や工芸品の調査は少ない。美術工芸品については、文化財指定時に個別に調査を行い、総合的な把握調査は行われなかったためと考えられる。

民俗文化財は、高岡御車山に関するものが半数を占めている。記念物は、指定文化財をはじめとする遺跡の調査が多い。また、二上山を中心に昆虫や植物の調査がなされている。

伝統的建造物群は、山町筋・金屋町・吉久の調査報告のほか毎年実施している修理・修景事業の報告を行っている。また、歴史文化基本構想策定時に伝統的建造物が集中する町並みの調査を行っている。

市内文化財の把握調査の状況

地区		類型	中心部	下関	博労	横田	西条	成美	二上	守山	能町	野村	二塚	佐野	木津	福田	小勢	立野	東五位	石堤	国吉	牧野	伏木	太田	戸出	中田	福岡
有形文化財	建造物		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	美術	絵画	○	○	○	—	—	—	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	△	△	—	△
	彫刻		○	○	△	△	△	—	△	—	△	△	△	△	—	△	△	△	△	△	—	—	△	△	△	—	△
	工芸品		○	△	—	△	—	—	△	—	—	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	△	△	—	△
	書跡・典籍		△	△	—	—	—	—	—	—	—	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	△	—	—	—
	古文書		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	考古資料		○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歴史資料		△	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	—	△	—	△
無形文化財			△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△
民俗文化財	有形の民俗文化財		○	—	—	—	—	—	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	—	△	—	△
	無形の民俗文化財		○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	○
記念物	遺跡		○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	名勝地		△	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	○	—	—	△
	動物・植物・地質鉱物		○	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	△	△	○	△
文化的景観			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	△	○
伝統的建造物群			○	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	—	—	△	—	△	—	—	—	—	○	△	○	○	○

○：調査が進んでいる分野、—：未調査、△：調査が不十分な分野

※中心部は平米・定塚・川原。伏木、戸出、中田、福岡は旧町の範囲

2 指定等文化財の概要

(1) 指定等文化財の件数

高岡市の指定文化財は、令和6年3月現在、国指定22件（うち国宝2件）、県指定23件、市指定91件、国選定3件、国登録40件の合計179件となっている。

高岡市内の指定等文化財の状況（令和6年3月現在）

文化財の類型			国				県		市	総計
			指定	選定	選択	登録	指定	登録	指定	
有形文化財	建造物		8	-	-	39	1	-	5	53
	美術工芸品	絵画	2	-	-	0	1	-	4	7
		彫刻	2	-	-	0	5	-	12	19
		工芸品	2	-	-	0	4	-	19	25
		書跡・典籍	1	-	-	0	1	-	3	5
		古文書	0	-	-	0	1	-	14	15
		考古資料	0	-	-	0	0	-	4	4
		歴史資料	0	-	-	0	3	-	0	3
無形文化財		0	-	0	0	0	0	1	1	
民俗文化財	有形の民俗文化財	1	-	-	1	0	-	2	4	
	無形の民俗文化財	2	-	0	0	1	0	2	5	
記念物	遺跡		3	-	-	0	4	-	14	21
	名勝地		1	-	-	0	0	-	1	2
	動物・植物・地質鉱物		0	-	-	0	2	-	10	12
文化的景観			-	0	-	-	-	-	-	0
伝統的建造物群			-	3	-	-	-	-	-	3
総計			22	3	0	40	23	0	91	179

※制度がないものは“-”と表記し、制度はあるが該当がないものは“0”としている。

※国選定の重要伝統的建造物群保存地区「高岡市山町筋伝統的建造物群保存地区」の特定物件は107件（うち、指定等文化財は11件）、「高岡市金屋町伝統的建造物群保存地区」の特定物件は131件（うち、指定等文化財は0件）、「高岡市吉久伝統的建造物群保存地区」の特定物件は58件（うち、指定等文化財は4件）

高岡市内の未指定文化財の状況（令和6年3月現在）

文化財の類型			合計
有 形 文 化 財	建 造 物		1,108
	美 術 工 芸 品	絵 画	6
		彫 刻	16
		工 芸 品	16
		書跡・典籍	8
		古 文 書	13
		考 古 資 料	1
		歴 史 資 料	10
無 形 文 化 財		4	
民 俗 文 化 財	有形の民俗文化財	7	
	無形の民俗文化財	237	
記 念 物	遺跡	13	
	名勝地	5	
	動物・植物・地質鉱物	3	
文 化 的 景 観		2	
伝統的建造物群		9	
合計		1,458	
埋蔵文化財		341	
その他		3	
総合計		1,802	

(2) ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」

「山・鉾・屋台行事」は、地域社会の安泰や災厄防除を願い、地域の人々が一体となり執り行う「山・鉾・屋台」の巡行を中心とした祭礼行事である。平成28年（2016）に「高岡御車山祭の御車山行事」（昭和54年2月3日重要無形民俗文化財指定）を含む全国33の祭り行事が「山・鉾・屋台行事」として登録された。高岡御車山祭の御車山行事は、ユネスコの政府間委員会の決議文の中で、市や、地域の他の場所

出身の老若男女が組織の責任や行事の運営を分担し、地域文化の多様性を示す山・鉾・屋台の設計、製作をはじめ、行事で演奏される囃子（はやし）や行事全体の調整など、すべての段階が共有されている例として挙げられている。

(3) 日本遺産

文化庁では、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として認定し、歴史的経緯や、地域の風土に根差した世代を超えて受け継がれている伝承、風習などを踏まえたストーリーの下に有形・無形の文化財を文化財群としてパッケージ化して総合的に活用する取り組みを支援している。

本市においては、「地域型」（単一の市町村内でストーリーが完結）と「シリアル型」（複数の市町村にまたがってストーリーが展開）でそれぞれ認定を受けている。

ア 加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡ー人・技・心ー（地域型）

・ストーリーの概要

高岡は商工業で発展し、町民によって文化が興り受け継がれてきた都市である。高岡城が廃城となり、繁栄が危ぶまれたところで加賀藩は商工本位の町への転換政策を実施し、浮足立つ町民に活を入れた。鋳物や漆工などの独自生産力を高める一方、穀倉地帯を控え、米などの物資を運ぶ良港を持ち、米や綿、肥料などの取引拠点として高岡は「加賀藩の台所」と呼ばれる程の隆盛を極める。

町民は、固有の祭礼など、地域にその富を還元し、町民自身が担う文化を形成した。純然たる町民の町として発展し続け、現在でも町割り、街道筋、町並み、生業や伝統行事などに、高岡町民の歩みが色濃く残されている。

・構成文化財

番号	類型	名称	指定等
1	建造物	瑞龍寺	国指定
2	遺跡	前田利長墓所	国指定
3	建造物	五福町神明社本殿	市指定
4	建造物	大手町神明社拝殿	市指定
5	遺跡	高岡城跡	国指定
6	古文書	前田利長公親書	市指定
7	有形の民俗文化財	高岡御車山	国指定
8	無形の民俗文化財	高岡御車山祭の御車山行事	国指定
9	遺跡	与四兵衛顕彰碑（弥真進大人命旧跡）	未指定
10	古文書	明和八年製高岡町図	市指定
11	伝統的建造物群	山町筋伝統的建造物群保存地区	国選定
12	建造物	菅野家住宅	国指定
13	建造物	筏井家住宅	県指定
14	建造物	土蔵造りのまち資料館（旧室崎家住宅）	市指定
15	伝統的建造物群	金屋町伝統的建造物群保存地区	国選定
16	古文書	仁安の御諭旨	市指定
17	古文書	前田利長書状	市指定
18	建造物	有磯正八幡宮（本殿、釣殿、拝殿及び幣殿）	国登録
19	工芸品	銅造阿彌陀如来坐像	市指定
20	有形の民俗文化財	高岡鋳物の製作用具及び製品	国登録
21	無形の民俗文化財	御印祭	未指定
22	建造物	旧南部鋳造所キューポラ及び煙突	国登録
23	有形の民俗文化財	梵鐘龍頭木型	市指定
24	建造物	戸出御旅屋の門	市指定
25	建造物	勝興寺	国指定
26	遺跡	伏木港（伏木浦）	未指定

27	建造物	伏木北前船資料館（旧秋元家住宅）	市指定
28	建造物	棚田家住宅	国登録
29	建造物	能松家住宅	国登録
30	建造物	有藤家住宅	国登録
31	建造物	高岡市商工会議所伏木支所	国登録
32	建造物	伏木気象資料館（旧伏木測候所庁舎・測風塔）	国登録
33	建造物	丸谷家住宅	国登録
34	建造物	佐野家住宅	国登録
35	建造物	清都酒造場	国登録
36	無形の民俗文化財	越中福岡の菅笠製作技術	国指定
37	伝統的建造物群	菅笠問屋の町並み	未指定
38	伝統的建造物群	吉久伝統的建造物群保存地区	国選定

・所在自治体

・富山県高岡市

イ 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～（シリアル型）

・ストーリーの概要

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられる。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っている。また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われている。これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやまない。

・高岡市の構成文化財

番号	類型	名称	指定等
1	建造物	秋元家住宅（高岡市伏木北前船資料館）	市指定
2	建造物	旧伏木測候所庁舎・測風塔（高岡市伏木気象資料館）	国登録
3	建造物	伏木神社	未指定
4	無形の民俗文化財	伏木神社春季例大祭の祭礼行事	市指定
5	無形の民俗文化財	伏木帆柱起し祝唄	未指定
6	建造物	勝興寺唐門	国指定
7	伝統的建造物群	吉久伝統的建造物群保存地区	国選定
8	建造物	菅野家住宅	国指定
9	有形の民俗文化財	高岡鋳物の製作用具及び製品	国登録

・所在自治体

北海道（小樽市・石狩市・函館市・松前町）、青森県（野辺地町・鯨ヶ沢町・深浦町）、秋田県（能代市・男鹿市・秋田市・由利本荘市）・にかほ市、山形県（酒田市・鶴岡市）、新潟県（村上市・新潟市・佐渡市・長岡市・出雲崎町・上越市）、富山県（富山市・高岡市）、石川県（輪島市・志賀町・金沢市・白山市・小松市・加賀市）、福井県（坂井市・南越前町・敦賀市・美浜町・小浜市）、京都府（宮津市）、大阪府（大阪市・泉佐野市）、兵庫県（神戸市・高砂市・姫路市・たつの市・新温泉町・赤穂市・洲本市）、鳥取県（鳥取市）、島根県（浜田市）、岡山県（倉敷市・岡山市・備前市）、香川県（多度津町）、広島県（尾道市・竹原市・呉市）

3 文化財の類型ごとの概要

(1) 有形文化財

ア 建造物

指定文化財は14件、登録有形文化財は39件ある。当市の代表は寺院建築であり、瑞龍寺や勝興寺は伽藍の建築群のほとんどが国指定となっている。そして「瑞龍寺仏殿、法堂、山門」、「勝興寺本堂、大広間及び式台」の2件が国宝に指定されている。

また、近世豪農の民家である「武田家住宅」、「佐伯家住宅」（いずれも国指定）や近代高岡の商家の土蔵造り建造物である「菅野家住宅」（国指定）、「筏井家住宅」（県指定）、「旧室崎家住宅」（市指定）などがある。国登録有形文化財には、町並みを構成する民家や社寺のほか、「旧伏木測候所」や「旧南部鑄造所 キュポラ・煙突」など近代高岡の歴史を物語る建造物がある。

未指定文化財は、国泰寺などの寺院建築、町家なども含めて1,108件を把握している。



瑞龍寺（国宝・国指定）



勝興寺（国宝・国指定）



佐伯家住宅（国指定）



菅野家住宅（国指定）



旧伏木測候所（国登録）



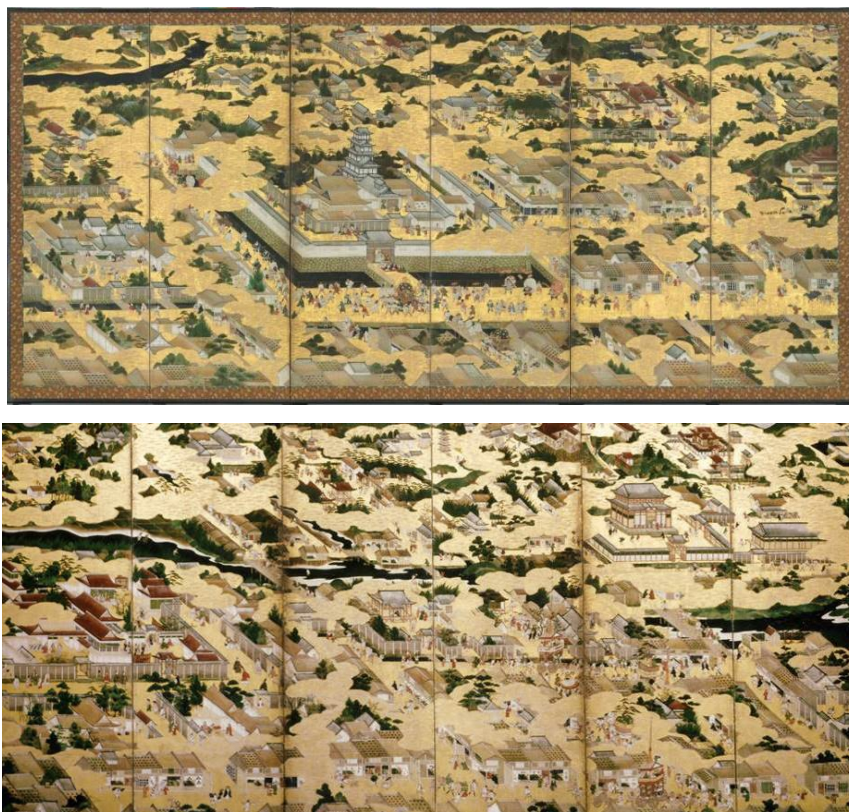
旧南部鑄造所（国登録）

イ 美術工芸品

絵画

指定文化財は7件ある。「紙本金地著色洛中洛外図六曲屏風」(国指定)、^{しほんきんぢやくしよくらくちゅうらくがいすろくきよくびようぶ}「紙本著色一塔両尊像、^{しほんぢやくしよくいっとうりょうそんぞう}日蓮像、^{にちれんぞう}鬼子母神十羅刹女像、^{きしぼじんじゅうらせつじょぞう}絹本著色三十番神像」(国指定)、初期洋画の^{けんぽんぢやくしよくさんじゅうばんしんぞう}「達磨図」(市指定) ^{だるます}など主に寺院に伝来している。

未指定文化財は「高岡町奉行肖像」など6件を把握している。寺院に仏画などが存在していると想定される。



紙本金地著色洛中洛外図六曲屏風（国指定）



紙本著色一塔両尊像、日蓮像、鬼子母神十羅刹女像、絹本著色三十番神像（国指定）

彫刻

指定文化財は19件ある。「木造千手観音坐像」(国指定)、^{もくぞうせんじゅかんのんざぞう}「木造男神坐像」(国指定)、^{もくぞうだんしんざぞう}「木造烏菟沙摩」(国指定) ^{もくぞううすさま}

「明王立像」(県指定)、^{もくぞうこまいぬ}「木造狛犬」(市指定)など多くが寺社に由来し、^{どうぞう あみだによらいざぞう}「銅造阿弥陀如来坐像」(市指定)や^{せいどうずいしんぞう}「青銅随神像」(市指定)など高岡鋳物と関係が深いものもある。

未指定文化財は伝越中国分寺木造天部像など16件を把握している。他にも木造・石造の仏像のほか、銅像の原型などが想定される。



木造男神坐像(国指定)



木造千手観音坐像(国指定)

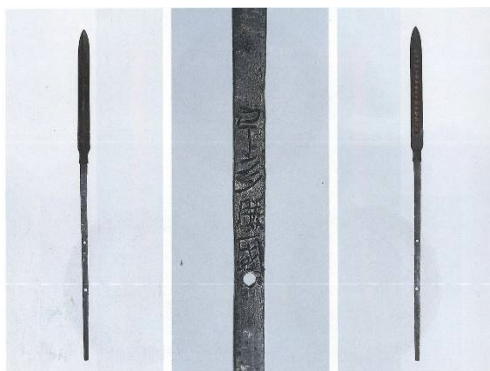


木造鳥菟沙摩明王立像(県指定)

工芸品

指定文化財は25件ある。中世の名工越中宇多派の槍先である「槍 銘 宇多勝国」(市指定)や近世は高岡伝統工芸の集大成である「高岡御車山」(県指定)、高岡彫金の祖である安川乾清の代表作である「木蓮に小禽図飾金具」(ともに市指定)がある。近代では内国勸業博覧会やパリ万博に出品された「武人文大香炉」(市指定)、「福寿文勇助塗飾棚」(市指定)など高岡のものづくりに関するものが多い。

未指定文化財は、梵鐘や宇多派の刀剣など16件を把握している。他にも銅器や漆器など高岡のものづくりに関する工芸品が多く存在していると想定される。



槍 銘 宇多勝国(市指定)



木蓮に小禽図飾金具(市指定)



竹虎紋金銀象嵌鍔(市指定)



武人文大香炉(市指定)



福寿文勇助塗飾棚(市指定)

書跡・典籍

指定文化財は5件ある。書跡は「紙本墨書後陽成院宸翰御消息」(国指定)、「紙本墨書近衛信尋筆懷紙」(県指定)、高岡町奉行の書である「長屋八内書」^{ながやはちだいし}、幕末天狗党の軍旗である「武田耕雲斎書」^{たけだこうんさいし}(ともに市指定)の4件、典籍は室町時代の注釈本の写本である「孟子抄」^{もうししょう}(市指定)がある。

未指定文化財は『萬葉集』断簡など8件を把握している。他にも寺院や古い商家などに存在することが想定される。



長屋八内書（市指定）

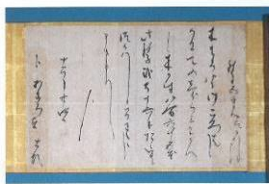
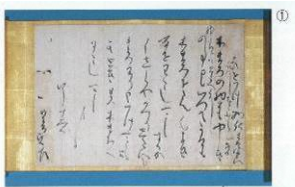


孟子抄（市指定）

古文書

指定文化財は15件ある。前田利長が楽市楽座を認めた際の「木造篠川村市場制札」^{もくぞうさきがわむらいちばせいさつ}(県指定)のほか、「前田利長公御親書」^{まえだとしながこうごしんしよ}、「前田利家安堵状」^{まえだとしいえあんどうじょう}、「戸出野開御印状」^{といでのひらきごいんじょう}、「明和8年製高岡町図」^{めいわ8ねんせいたかおかまちず}、「杉野家古文書」^{すぎのけこもんじよ}、「前田利長書状」^{まえだとしながしよじょう}、「高岡御車山文書」^{たかおかみくるまやまもんじよ}、「二上射水神社文書」^{ふたがみいみずじんじやもんじよ}(いずれも市指定)など近世の前田家の治世に由来するものが多い。

未指定文化財は、佐渡家文書など13件を把握している。先述の調査結果(2-(2)本計画の作成にあたり実施した調査)に見られるように10万点以上存在し、また確認されていないものも多くあると想定される。



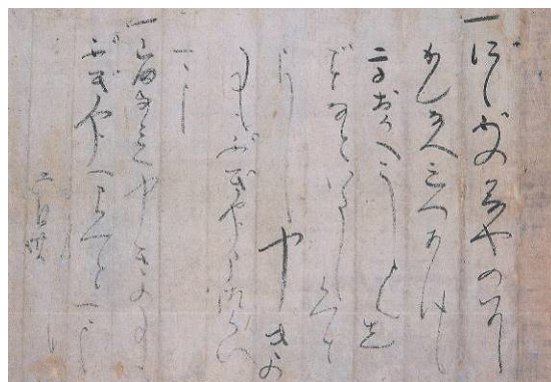
前田利長公御親書（市指定）



前田利家安堵状（市指定）



杉野家古文書（市指定）



前田利長書状（市指定）

考古資料

指定文化財は4件ある。奈良時代の作と推定される「瓦硯」、国史跡桜谷古墳周辺からの「桜谷古墳付近出土品」、上向田経塚から出土した「珠洲焼 刻銘経外容器（経筒）」、伏木古府で出土した「白山経塚出土品」（いずれも市指定）が存在する。

未指定文化財は瑞龍寺の鉛瓦1件を把握している。埋蔵文化財包蔵地からの多くの出土品があり、今後も発掘調査の実施に伴って増加が見込まれる。



桜谷古墳付近出土品（市指定）

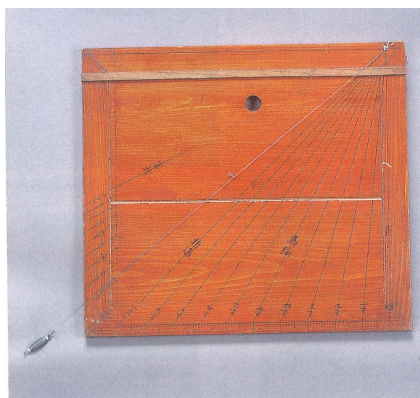


珠洲焼 刻銘経外容器（経筒）（市指定）

歴史資料

指定文化財は3件ある。「前田家寄進の宝物」、「勝興寺宝物」のほか、江戸時代の測量器具である「清都家測量器具等関係資料」（いずれも県指定）が存在する。

未指定文化財は、高峰譲吉の別荘である松楓殿関係資料など10件を把握している。そのほか、高峰譲吉のほか藤井能三や林忠正など高岡の歴史において重要な人物に関する遺品などが想定される。



清都家測量器具等関係資料（県指定）

(2) 無形文化財

指定文化財は福岡地域に近世から続く雅楽 1 件がある。

未指定文化財は鋳物や漆工の工芸技術 4 件を把握している。



雅楽（市指定）

(3) 民俗文化財

ア 有形の民俗文化財

指定文化財が 4 件、登録文化財が 1 件ある。高岡の町民文化の結晶である「高岡御車山」^{たかおかみくるまやま}（国指定）、その御車山が曳山に発展する前の形態と考えられる「越中総社射水神社築山」^{えつちゅうそうじやいみずじんじやつきやま}（市指定）のほか、戸出における鋳物業隆盛の証である「梵鐘龍頭木型」^{ぼんしやうりゆうづきがた}（市指定）がある。また、高岡鋳物の発展の過程で使用された「高岡鋳物の製作用具および製品」^{たかおかいものせいさくようぐせいひん}（国登録）がある。

未指定文化財は、漆器製作道具など 7 件を把握している。そのほか、獅子頭などの祭礼行事の用具や生活用品などが想定される。



高岡御車山（国指定）



越中総社射水神社築山（市指定）



梵鐘龍頭木型（市指定）



高岡鋳物の製作用具および製品（国登録）

イ 無形の民俗文化財

指定文化財は5件ある。「高岡御車山祭の御車山行事」(国指定)、「二上射水神社の築山行事」(県指定)のほか、けんか山で知られる「伏木神社春季例大祭の祭礼行事」(市指定)や「氣多神社のにらみ獅子」(市指定)の祭礼行事がある。また、400年以上の年月を経て当初の生産・製作形態を保ちながら継承されている「越中福岡の菅笠製作技術」(国指定)がある。

未指定文化財は、獅子舞などの祭礼のほか左義長やつくりもんまつりに代表される地蔵祭など年中行事237件を把握している。祭礼や年中行事については、把握できていないものも多い。そのほかにも天神信仰や郷土食などが想定される。



高岡御車山祭の御車山行事（国指定）



二上射水神社の築山行事（県指定）



氣多神社のにらみ獅子（市指定）



越中福岡の菅笠製作技術（国指定）

(4) 記念物

ア 遺跡

指定文化財は21件ある。古代のものとして「桜谷古墳」(国指定)、「下向田古墳群」(市指定)などの古墳や「城が平横穴古墳」(県指定)、「江道横穴古墳群」(市指定)などの横穴墓群のほか伏木台地に「越中国分寺跡」(県指定)がある。中世は「木舟城跡」(県指定)、「守山城跡」(市指定)などの城郭や「弓の清水古戦場」(市指定)がある。近世は「高岡城跡」(国指定)、「加賀藩主前田家墓所」(前田利長墓所) (国指定)、「瑞龍寺境内地」(市指定)が高岡台地上にある。

未指定文化財は、街道や近代化遺産など13件を把握している。そのほか、二上山から西山丘陵沿いに分布する古墳群や越中国庁跡など越中国府に関連するものが想定される。



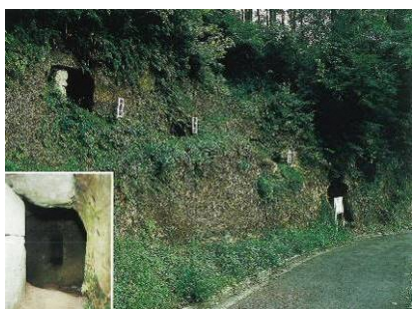
桜谷古墳（国指定）



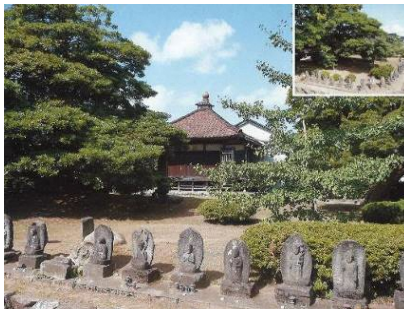
下向田古墳群（市指定）



城が平横穴古墳（県指定）



江道横穴古墳群（市指定）



越中国分寺跡（県指定）



弓の清水古戦場（市指定）



木舟城跡（県指定）



守山城跡（市指定）



高岡城跡（国指定）



加賀藩主前田家墓所
（前田利長墓所）（国指定）



瑞龍寺境内地（市指定）

イ 名勝地

指定文化財が2件ある。小矢部川支流の子撫川にある溪谷美の「五位の滝の沢」(市指定)と「おくのほそ道の風景地—有磯海—」(国指定)がある。松尾芭蕉が「わせの香や分入右は有磯海」の句に詠んだ「有磯海」は、大伴家持の古歌に因む越中の代表的な歌枕である。指定範囲にある雨晴海岸は万葉集では「洪谿」と呼ばれ、小さな女岩を前景として海越しに3,000m級の立山連峰を望むことができる景勝地である。

未指定文化財は、二上山や小矢部川（射水川）など5件を把握している。



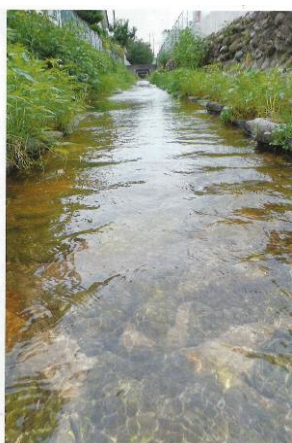
おくのほそ道の風景地ー有磯海ー（国指定）



二上山

ウ 動物・植物・地質鉱物

指定文化財が12件ある。「トミヨとゲンジボタル及びヘイケボタル生息地」（県指定）、「^{かみあそう}上麻生のあし^{あさいじんじゃ}つきのり」（県指定）など水の豊かさを物語るもののほか、「^{すきなみき}浅井神社の杉並木」（市指定）、「^{にしえびざかしんめいしゃ}西海老坂神明社の大杉」（市指定）、^{おおすぎ}親鸞聖人が目を留めたといわれる「^{しんらん}浄永寺の大いちょう」（市指定）など寺社に伝わる樹木や「^{こし ひがんざくら}越の彼岸桜」（市指定）、「^{といで おたや こうやまき}戸出御旅屋の高野槇」（市指定）など前田家に由来する樹木がある。未指定文化財は、低地型ブナ林など3件を把握している。



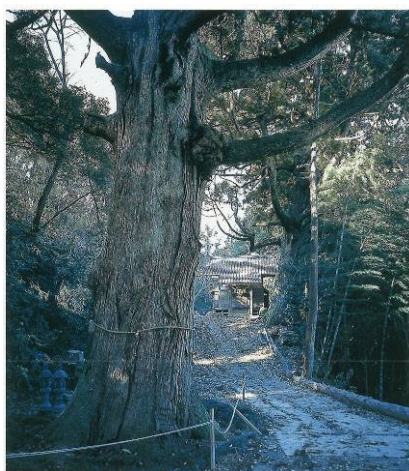
上麻生のあしつきのり（県指定）



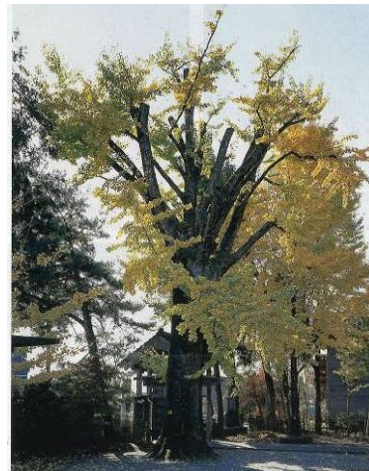
トミヨとゲンジボタル及びヘイケボタル生息地（県指定）



浅井神社の杉並木（市指定）



西海老坂神明社の大杉（市指定）



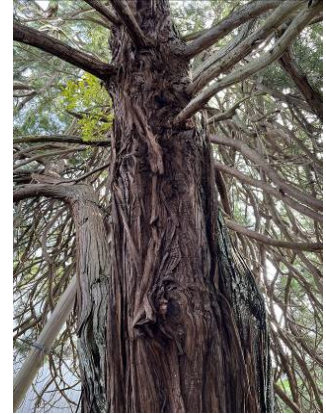
浄永寺の大いちょう（市指定）



沢川田畑家の大杉（市指定）



越の彼岸桜（市指定）



戸出御旅屋の高野槇（市指定）

(5) 文化的景観

文化財選定地域はない。未指定文化財は「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究」（文化庁監修）において挙げられた「福岡町の菅田と菅干し」や「砺波平野の散村」など2件を把握している。



福岡町の菅田と菅干し



散村の風景

(6) 伝統的建造物群

指定等文化財は山町筋、金屋町、吉久（いずれも国選定）の3件ある。未指定文化財は福岡、戸出、中田など近世の街道沿いの町並みや港町の伏木など9件を把握している。



高岡市山町筋伝統的建造物群保存地区



高岡市金屋町伝統的建造物群保存地区



高岡市吉久伝統的建造物群保存地区



高岡市福岡町の町並み

(7) 埋蔵文化財

市域では 341 の埋蔵文化財包蔵地が周知されている。越中国府があった伏木エリアは大部分を越中国府関連遺跡として埋蔵文化財包蔵地となっている。小矢部川左岸の二上山から西山丘陵沿いに古墳群や城跡が多く分布している。庄川と小矢部川に挟まれた地域では、石名田木舟遺跡^{いしなだきふね}、下老子笹川遺跡^{しもおいごさきがわ}、石塚遺跡^{いしづか}など庄川扇状地扇端部に多く分布し、扇中央部に近い戸出地区は比較的少ない。庄川右岸では、庄川河口に近い牧野地区に多く分布している。

(8) その他

歌碑・句碑・顕彰碑等

加賀前田家 5 代当主前田綱紀^{つなのり}が射水郡の十村役に越中万葉の歌枕を調査させたこともあり、近世の後半には土地の有力者の間に万葉集の関心を芽生えさせた。市内には安政 5 年（1858）に肝煎の宗九郎が建てた歌碑があるほか、近代以降万葉故地であることを顕彰する歌碑が 25 基存在している。

元禄 2 年（1689）に万葉集など和歌に詠まれた歌枕を訪ねて東北から北陸地方を旅し、紀行文「おくのほそ道」を記した松尾芭蕉は、高岡で一泊している。やがて越中でも芭蕉の流れを組む俳諧が盛んになり、戸出出身の俳人尾崎康工^{おざきこうこう}などが有名である。市内には安政 4 年（1857）に建立されたものをはじめ、芭蕉を偲ぶ句碑が 4 基存在している。

また、市内には大伴家持や前田利長のほか、藤井能三や高峰譲吉など高岡に縁ある人の遺徳をしのぶ碑が残されている。

舞句（前句）

前句は俳諧の練習の前句付けから派生し、季題などの規則に拘束されことなく、日常的な言葉遣いで生活を 5 7 5 調の詩形で自由率直に表現した大衆文芸であり、明治に入って「舞句^{まいく}」と呼ばれるようになった。高岡を中心とする富山県西部で盛んで、福岡地域では現在も句会が行われている。